ALFAE 環境整備で安定収穫

植物工場シンポ開催

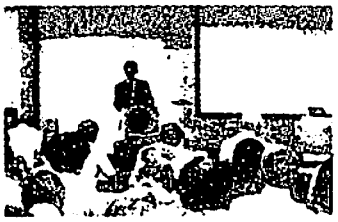
㈳ALFAE（アジア・太平洋 食・農・環境拠点）が主催するシンポジウム「情報通信技術・植物工場から見える農業の『新パラダイム』」が6月29日、東京の秋葉原ダイビルで行われた。

冒頭、農林水産省生産局生産流通振興課園芸生産第2班の滑水治弥課長補佐は「高度な環境を整備することで、野菜や花などの周年収穫が可能になる。経験産業といわれる農業に、情報通信技術を活用していただきたい」と挨拶し、植物工場への期待を示した。

千葉大学の古在豊樹教授による「低炭素社会の実現に向けた持続的植物生産工場の展望と課題」と題した基調講演やパネルディスカッションなどが行われた。

㈳ALFAEはアジア太平洋圏を起点に「食・農・環境」のバランスのとれた経済と文化の発展を追求し、戦略的な技術研究開発・仕組みの構築、産業化支援を行う、産官学で構成する一般社団法人。

当日は約130人が来場した。



植物工場のシンポジウム